市町村名	多良間村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-①	美化緑化推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－(2)－ウ 多様かつ質の高い観光の推進
担当部課名	観光振興課	事業実施（予定）年度	平成25年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

快適な観光地を形成するために、観光関連施設や周辺道路の美化・緑化を行う。
【実施箇所】
・観光関連施設及びアクセス道路(農村公園・ふるさと海浜公園・八重山遠見台・前泊地区東屋等・三ッ瀬公園・宮古市の森公園・村営GG場・テニスコート周辺・多目的広場)

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	9, 252	8, 870	8, 870	8, 870	9, 126
	(b) 予算現額	8, 360	7, 480	8, 690	8, 690	8, 250
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 892	▲ 1,390	▲ 180	▲ 180	▲ 876
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	8,360	7,480	8,690	8,690	8,250
B. 執行済額		8, 360	7, 480	8, 690	8,690	8,250
うち交付金充当額		6, 688	5, 984	6, 952	6,952	6,600
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明：当初の計画通りで、想定内の予算執行であった。
876千円の減額は入札残である。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
公園9カ所の美化・緑化を実施し、観光客等が気持ちよく利用出来るように取り組む。	目　標	公園9カ所の（美化・緑化の）実施	公園9カ所の（美化・緑化の）実施	公園9カ所の（美化・緑化の）実施	公園9カ所の（美化・緑化の）実施
	実　績	公園9カ所の美化・緑化の実施	公園9カ所の美化・緑化の実施	公園9カ所の美化・緑化の実施	公園9カ所の美化・緑化の実施
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：・公園9カ所・観光関連施設及びアクセス道路の美化・緑化を年に6回実施し、年間を通して美しい景観を保つことが出来た。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（年度）
観光地周辺の景観形成及び道路環境について、観光地としてふさわしい景観及び道路環境であると感じたか（80%以上）を含め、当該事業のあり方についてアンケート調査により検証する。	目　標	（　　）	（80%）	（80%）	（80%）	（　　）
	実　績		85%	85%	85%	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：・観光地としてふさわしい景観及び道路環境であるのか満足度調べにおいては、1月から3月迄の期間、空港、夢パティオたらま、地域振興拠点施設、港の4カ所で満足度調査を実施した結果、満足した人が85%となり、目標を達成した。

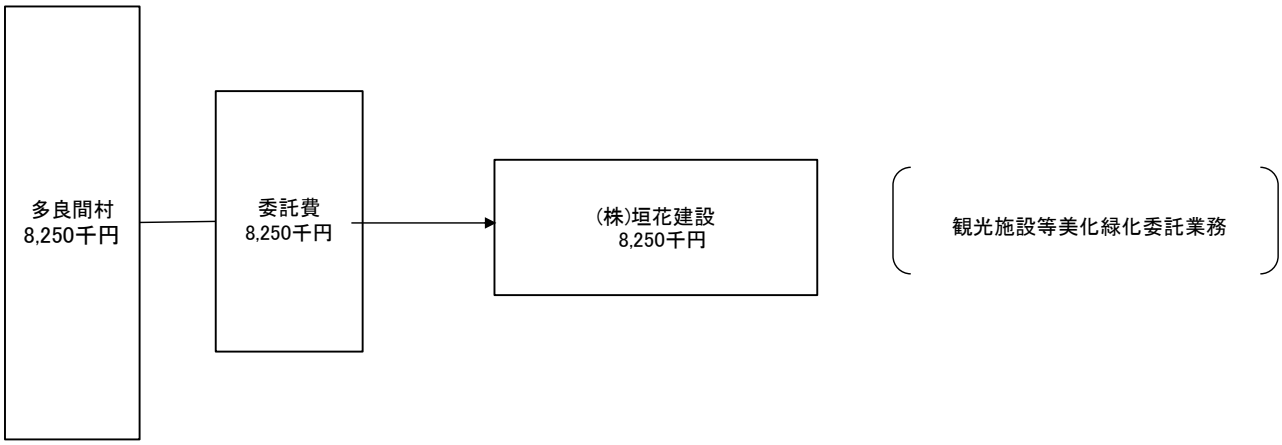
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	公園9カ所・観光関連施設及びアクセス道路の美化・緑化の細箇所等の除草・枝打ち作業を定期的に実施、台風後の観光関連施設及びアクセス道路周辺の片付け作業等もスムーズに行え、年間を通して美しい景観を保つことが出来た結果・目標を達成することができた。課題としていた公園8箇所に設置されているトイレ・シャワー室の修繕等も進めることができた、緑化の部分で植栽計画をたて、年2回、4カ所の公園施設に花木の植栽を行いより美しい景観を構築できた。	・目標としている満足度80％以上の達成率の維持を目指す。年間を通して観光関連施設や周辺道路の美化緑化を図り、満足度調べで検証していく。 ・3月～夏期にかけ雑草が繁茂し害虫の発生等も心配されるため除去作業をより丁寧に行う。周辺の木の枝打ち作業も繁茂期は毎回行う。 ・今年度も引き続き緑化の部分で植栽計画をたて、より美しい景観を構築していく。

今後の取り組み方針

・各公園9カ所・観光関連施設及びアクセス道路の美化・緑化を年6回実施し、年間を通して美しい景観を保つことが出来るように取り組む。
・村全体が美しい景観で保てるよう他部署とも連携して検証していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,250	8,250	6,600	1,650	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額なく、適正な予算規模と考えられる。 ○指名競争入札により落札された業者であり妥当と考えている。 ○費用、使途については積算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	多良間村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-②	八重山遠見台展望塔機能強化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－(2)－ウ 多様かつ質の高い観光の推進
担当部課名	観光振興課	事業実施（予定）年度	令和6年度～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	本村の地域資源を活かした観光産業の振興を図るため、八重山遠見台展望塔の機能強化を行い、観光客等利用者の利便性の向上及び安全確保を図り、快適な環境づくりによる観光地形成を推進する。				
効果発現年度	□当年度　■後年度（令和7年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R6年度	R6年度(繰越)	○年度	○年度	○年度
予算の状況	(a) 当初予算額	30,380				
	(b) 予算現額	27,960				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,420	0	0	0	0
	(d) 繰越額		15,686	0	0	0
	A. 計 (b+d)	27,960	15,686	0	0	0
B. 執行済額		25,238				
うち交付金充当額		20,190				
次年度繰越額		15,686				
執行率（%）(B/A)		90.3%	0.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：予算27,960千円で工事・委託の入札を行い工事・委託併せて25,238千円の落札だった。2，722千円の入札残額は不用額となった。
令和6年度は、工事の前金払30%の支払い済み。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R6年度	R7年度	○年度	○年度
八重山遠見台展望塔の機能強化を行い、観光客等利用者の利便性の向上及び安全確保を図り、快適な環境づくりによる観光地形性を推進する。	目　標	（機能強化工事）	（　）	（　）	（　）
	実　績	繰越			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：令和6年度の工事が繰越になり変更契約を行い令和7年6月末に工事完了する見込み。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（R7年度）	R7年度	R8年度	○年度	目標値（R7年度）
八重山遠見台展望塔の機能強化工事の完了。	目　標	（工事完了 供用開始）	（工事完了 供用開始）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
八重山遠見台展望塔の機能強化を行い、観光客等利用者の利便性の向上及び安全確保を図る。 観光客誘引数　9,500人⇒10,000人	目　標	（9,500）	（5,500）	（　）	（　）	（5,500）
	実　績					

進捗状況説明：令和7年6月末に工事完了し7月に供用開始予定。
1月～12月の一年間の入域観光客数調査を実施し、観光客数9,500人→10,000人への増加を目指す。令和7年については、強化工事が6月末で完了する予定であることから、共用開始後に年間目標の約半分となる5,500人を観光客利用を目標とする。

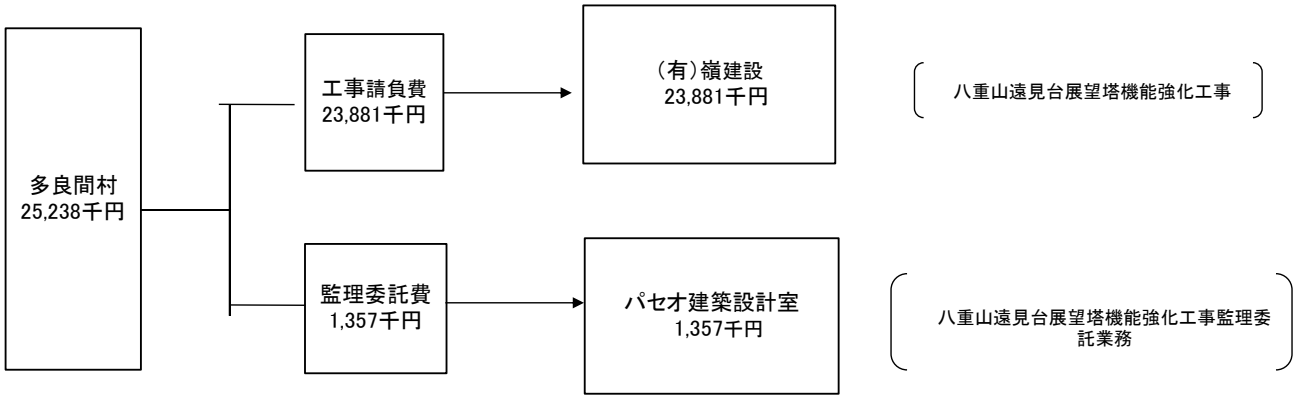
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	内外部の補修で美観が回復。 手摺や転落防止柵の強化。 双眼鏡の設置。	内外部の補修を行い見栄え美観の回復を目指す。 手摺や転落防止柵の強化を行い観光客等の来客者が安心して利用出来るよう目指していく。 双眼鏡の設置で景観魅力が向上し遠くの景色や名所をより詳細に楽しむことができ観光体験の質の向上を目指す。

今後の取り組み方針

強化工事完了後、強化された八重山遠見台をHP・SNS等を利用しPRしていき、多良間村観光客数の増加を目指す。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
25,238	25,238	20,190	5,048	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事・委託業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以上で不適正な規模であった。 ○指名競争入札により落札された業者であり妥当と考えている。 ○費用、使途については積算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	多良間村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-③	ヤシガニ生息状況調査業務		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(2)-ア
					環境の保全に資する事業
担当部課名	観光振興課	事業実施（予定）年度	令和5年度～令和10年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-10-(1)

事業内容

①R5年度調査において十分な調査ができなかった場所において大型個体を探索する。
②小型個体の生息状況および生息環境調査を実施し、多良間島におけるヤシガニの生息状況のさらなる解明につなげる。
③講演会を実施してヤシガニの生態や村内における生息状況について報告、村民のヤシガニの保全意識の醸成につなげ持続的な利活用について共有する。

効果発現年度

■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,800	722			
	(b) 予算現額	6,745	722			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 55	0			
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	6,745	722			
	B. 執行済額	6,707	580			
	うち交付金充当額	5,366	464			
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		99.4%	80.3%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		ほぼ当初計画通りで,想定内の予算執行状況であった。				

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
R5年度調査において十分な調査ができなかった場所において大型個体を探索する。	目　標	（150匹）	（500匹）	（　）	（　）
	実　績	2.035匹	712匹		
小型個体の生息状況および生息環境調査を実施し、多良間島におけるヤシガニの生息状況のさらなる解明につなげる。	目　標	（10箇所）	（2箇所）	（　）	（　）
	実　績	10箇所	2箇所		
講演会を実施してヤシガニの生態や村内における生息状況について報告、村民のヤシガニの保全意識の醸成につなげ持続的な利活用について共有する。	目　標	（実席報告会）	（実績報告会）	（	（　）
	実　績	1回実施	1回実施		

達成状況説明

2023年度生息状況調査では、主に島の海岸部(一周道路よりも外側)を調査対 象区としたため、多良間島の内陸部におけるヤシガニの分布状況については十分に把握で きていないことが課題となっていた。また、小型個体(貝殻を背負っている個体など)の発 見数も少なく、多良間島への新規加入に重要な場所を特定することができていない状況に ある。以上のことから、令和6年度(2024年度)では、1)島の内陸側(一周道路よりも内 陸)におけるヤシガニの生息状況の把握、2)小型個体の生息場所調査、を実施することとなった。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　）
R5年度調査において十分な調査ができなかった場所において大型個体を探索する。	目　標	（　）	（150匹）	（500匹）	（　）	（　）
	実　績		2035匹	712匹		
講演会を実施してヤシガニの生態や村内における生息状況について報告、村民のヤシガニの保全意識の醸成につなげ持続的な利活用について共有する。	目　標	（　）	（実績報告会）	（実績報告会）	（　）	（　）
	実　績		1回実施	1回実施		

進捗状況説明

･本年度調査によって、多良間島のやや内陸部(一周道路の内陸側)から計712個体のヤシ ガニが確認された。確認されたヤシガニの胸長素性の分析では、雄で30. 0-35. 0 mm,雌 で35. 0-40. 0 mmの個体数が最も多くなっており、多良間村ヤシガニ保護条例で捕獲可 能サイズとなっている甲長8cm以上(胸長換算で40 mm程度)の大型個体が高い捕獲圧 を受けていることが示唆された。
･八重山遠見台公園(155個体)、宮古遠見台周辺(190個体)、カーバルガー(27個体)で は、多数のヤシガニ個体が確認され、これらの地点(特に八重山遠見台公園と宮古遠見 台周辺)は、ヤシガニの保護区として好適であると判断された。
･海岸林内の転石帯から、貝殻に入った個体を含む小型ヤシガニが多数採集され、野外記録 個体としては国内最小サイズ記録(胸長1.1mm)となるヤシガニも採集された。また、 同環境にてヤシガニ脱皮個体が観察された。以上のことから、海岸林内の転石帯環境は、 ヤシガニ小型個体の重要な生息環境であることが明らかとなった。

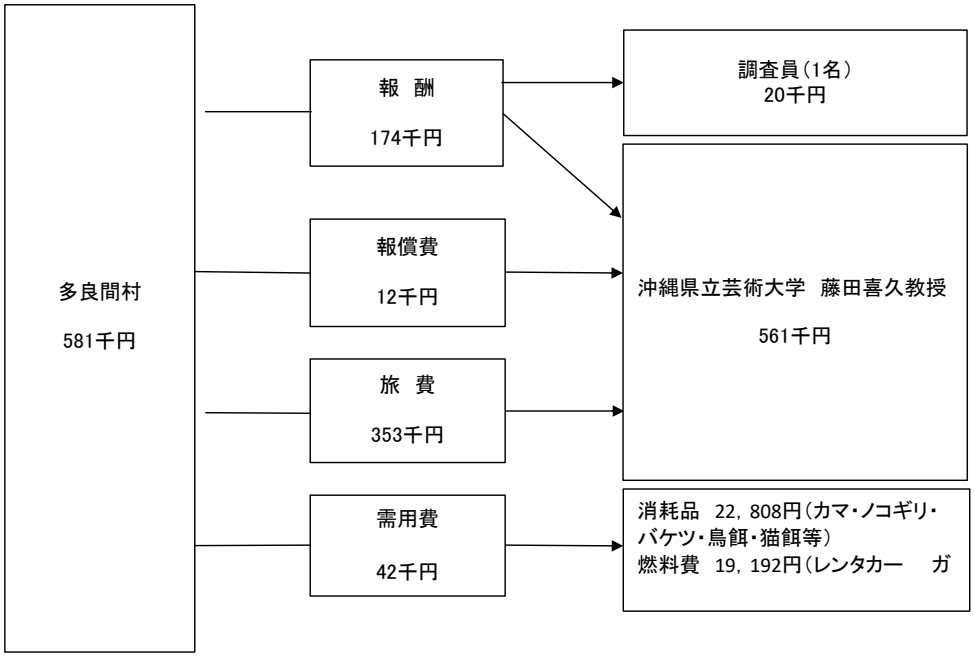
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	R5年度で観察できなかった多良間島における大型・小型個体のヤシガニの生息状況を把握する。	大型・小型個体の分布をR8年度まで調査する。そしてR9年度に調査及びこれまでの調査を集大成して自然環境におけるヤシガニ分布を明らかにする。

今後の取り組み方針

<ヤシガニの調査に関すること>
・多良間島南部の森林環境(防風林)での調査が未だ不十分であること
・多良間島北部の一部の防風林での調査が未だ不十分であること
・ヤシガニ小型個体の生息環境(海岸林内の転石帯)に関する調査が不十分であること
・水納島での詳細な生息状況調査が必要であること
<普及啓発に関すること>
・多良間村ヤシガニ保護条例の見直し(捕獲可能体サイズ及び捕獲禁止期間の見直し、保護区の設定
・島民への普及啓発活動(ヤシガニ展の実施、ヤシガニ冊子の作成など)
・体サイズ測定器の作成(条例の見直し後)

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
581	581	465	116	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・公立大学法人　沖縄県立芸術大学理事長宛に藤田喜久教授職員派遣依頼を提出し、令和6年度ヤシガニ生息状況調査業務への委嘱に対する承諾書受けて随意契約理由書も提出していますので妥当あったと考えている。 ・ほぼ当初計画通りで,想定内の予算執行状況であった。 ・費目、使途については、生産段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	多良間村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－①	優良繁殖雌牛導入支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	産業経済課	事業実施（予定）年度	平成27年度～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)

事業内容	生産農家が経営の安定化及び良質な肉用牛の改良推進を図る為、優良繁殖雌牛導入を支援する。 優良繁殖雌牛を導入する際に購入価格の1/2以内で最高40万円までを支援することにより、母牛の改良を推進する。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
	(b) 予算現額	8,000	8,000	8,000	4,000	4,000
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	-4,000	-4,000
	(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)	8,000	8,000	8,000	4,000	4,000
B. 執行済額		7,929	7,904	1,200	650	625
うち交付金充当額		6,342	6,323	960	520	500
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		99.1%	98.8%	15.0%	16.3%	15.6%

予算の状況の説明	今年度の導入は、20頭予定のうち2頭が導入されており、不用額3,375千円となった。

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
優良繁殖雌牛の導入頭数：10頭	目　標	（20頭）	（20頭）	（20頭）	（20頭）
	実　績	20頭	3頭	2頭	2頭
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	今年度の導入は、10頭予定の2頭導入となっている。セリ価格下落、物価高による飼料価格の高騰等より、畜産農家にとって厳しい畜産経営環境であり、優良繁殖雌の導入が難しい状況である。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（年度）
導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合122%以上	目　標	（　）	（122%）	（111%）	（122%）	（　）
	実　績		122.50%	119.30%	122.8%	
【参考指標】優良繁殖雌牛導入の支援完了頭数：20頭	目　標	（　）	（支援(20頭)の完了）	（支援(20頭)の完了）	（支援(20頭)の完了）	（　）
	実　績		支援(3頭)の完了	支援(2頭)の完了	支援(2頭)の完了	

進捗状況説明	導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合は122.8%となり、目標を上回った。

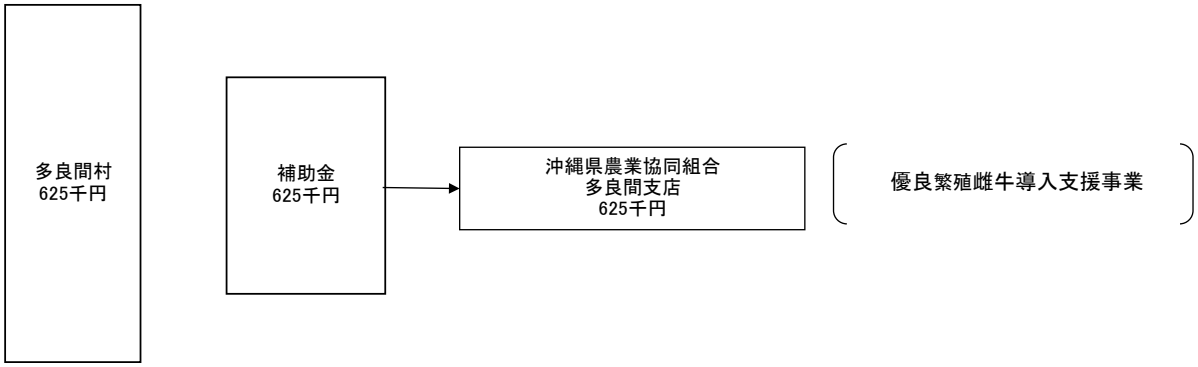
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	世界的な物価高による影響を受けて、セリ価格の下落に歯止めがかかず、キロ単価も低い状況にあり、県内平均子牛価格を下回っている。	世界的な物価高の影響によるセリ価格の下落においても、価格差は現れていることから生産農家への支援を継続していく必要がある。また、畜産農家の経営維持するための配合飼料等に対する支援も必要である。

今後の取り組み方針

畜産農家に配合飼料への補助等の各種支援を実施することにより経営維持を図る。また、本村においても畜産農家の高齢化が進んでいるが、本事業にて継続的に支援し続けることで担い手や新規就農者の確保を図っていきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,251	625	500	125	626



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○農業協同組合は県内外での導入実績があり、妥当だと判断 ○飼養頭数の3%で年間自家保留頭数の1/3程度なので規模は適正 ○負担割合は1/2以内としており事業内容から判断しても妥当と考える ○費目・使途については、補助金支出時に検査を実施しており事業目的に必要な支出と判断
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	多良間村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	３－①	児童生徒島外教育諸活動助成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-（1）-ウ 公平な教育機会の確保と学習環境の充実
担当部課名	多良間村教育委員会　教育課	事業実施（予定）年度	平成27年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（1）
事業内容	小中学校のスポーツ大会等が当該で開催されるため。児童生徒の引率者（派遣）で参加するための交通費（航空運賃）及び現地での滞在費を補助する。				
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3, 632	3, 435	3, 634	3, 967	3, 450
	(b) 予算現額	1, 805	1, 592	3, 064	3, 019	2, 941
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,827	▲ 1,843	▲ 570	▲ 948	▲ 509
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A.　計 (b+d)	1,805	1,592	3,064	3,019	2,941
B.　執行済額		953	1, 220	2,720	2,902	2,739
うち交付金充当額		762	976	2,176	2,308	2,191
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		52.8%	76.6%	88.8%	96.1%	93.1%

予算の状況の説明：宿泊を伴わない日帰りの大会や生徒・児童の県大会出場が少なかったので、当初計画より事業規模を減額した。不用額は執行残によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
①児童生徒、引率者の大会派遣に係る交通費（航空運賃）宿泊費に対する補助 ②島外の児童生徒との競争や交流の機会を通して、広い視野を広げさせながら意識の向上を図る	目　標	（派遣実施）	（派遣実施）	（派遣実施）	（派遣実施）
	実　績	派遣実施	派遣実施	派遣実施	派遣実施
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：年間で19の大会、派遣延人数(教諭含む)174人が本事業を利用した。今年度は、悪天候による飛行便の欠航に左右されず、大会に派遣ができ、児童生徒や引率者の渡航費及び宿泊費の助成が実施することできた。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
アンケートにより大会を通じて、「島内でできない経験ができた。意識の向上につながった」割合：80%	目　標	（　）	（80%以上）	（80%以上）	（80%以上）	（　）
	実　績		96%	97%	95%	
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：派遣された児童生徒へのアンケートで大会に参加して意識向上につながったとの回答が95%となり、成果目標を達成することができた。島外を出たことで、島内ではできない様々な経験を積んだことで、生徒児童の意識の向上につながったものと考えられる。

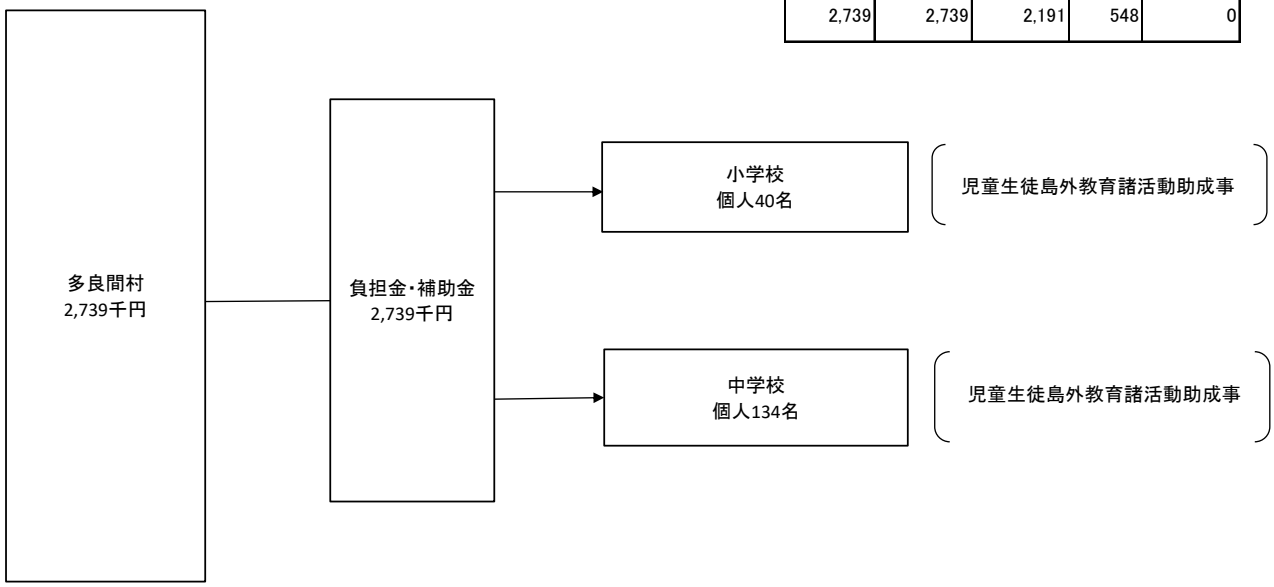
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	多くの大会に派遣することで、児童生徒の意識向上にはつながっている。児童生徒を大会に派遣するためには保護者の負担が大きい。また、一村一校の小規模校で少人数の環境にいる児童生徒にとっては、「大会」が視野を広げ意識向上を高める機会でもあり、能力を開花させる場所でもあり、精神鍛錬につながる場でもあるので、島外派遣教育は必要である。地区大会・県大会で競う選手との違いや課題を見つけ今後も各種大会に派遣し、児童生徒の意識向上を図るために継続支援が必要である。	大会開催が増えているので、複数の児童生徒を持つ保護者にとって経済負担は大きいが、派遣事業を推進する上にで児童生徒の意識向上と保護者への負担軽減ができている。地区大会・県大会を通して、競う選手との違いや課題を見つけることで意識向上につなげていく。

今後の取り組み方針

島外で開催される各種大会に参加することで、児童生徒の能力を開花させる機会でもあるので、保護者にとって経済負担は大きいが事業を推進し負担軽減につながっているので今後も助成を行う。学校との連携を図りながら速やかに事務処理が進められるよう務める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,739	2,739	2,191	548	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・小体連、中体連、引率者の派遣事業等に限定しているため、支出先の選定方法は妥当である。 ・予算額も事業内容に見合った執行となっており、適正な規模であった。 ・受益負担として、補助金上限額を超える分は負担してもらっている。 ・費目・使途については、精算段階で、検査実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	多良間村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	３ － ②	学力向上推進ALT活用事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章－５－（３）－ ア 国際感覚を身に付ける教育の推進
担当部課名	多良間村教育委員会　教育課	事業実施（予定）年度	平成27年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－（１）
事業内容	国際化社会に対応できる児童生徒の学力向上を図るため、ALTを招聘し国際感覚を養いながら児童生徒の英語力の向上を図る。				
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）				
実施方法	■直接実施　　□委託　　□補助　　□負担　　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	788	788	788	916	916
	(b) 予算現額	788	788	788	916	1, 374
	(c) 増減額 (b−a)	0	0	0	0	458
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A.　計 (b+d)	788	788	788	916	1,374
	B.　執行済額	744	768	721	311	1,337
	うち交付金充当額	595	614	577	249	1,070
次年度繰越額						
執行率（%）（B/A）		94.4%	97.5%	91.5%	34.0%	97.3%

予算の状況の説明：今年度は、ALT(外国語指導助手)が年間通して多良間村常駐のため、ALT(外国語指導助手)の有効活用ができ、執行率も97.3%となった。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
ALT（外国語指導助手）招聘年間62回	目　標	（　20回の招聘　）	（　20回の招聘　）	（　20回の招聘　）	（　62回の招聘　）
	実　績	20回の招聘	20回の招聘	8回の招聘	60回の招聘
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：今年度は、ALT(外国語指導助手)が年間を通して多良間村常駐のため、外国語指導助手(ALT)の有効活用が図れた。次年度も今年度と同様に外国語指導助手(ALT)を年間62回招聘し、外国語活動や英語の時間を通して英語に対する興味・関心を喚起するとともに、異文化に対する理解を深め、国際社会に対応できる国際感覚を養いながら児童生徒の学力向上に繋げたいと考える。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
①小学校 英語に対する興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、対象児童へのアンケート調査により当該事業のあり方を検証する。	目　標	（　　）	（　80%　）	（　80%　）	（　80%　）	（　　）
	実　績		88%	87%	82%	
②中学校 英検4級の保有割合：50%以上	目　標	（　　）	（　40%　）	（　45%　）	（　50%　）	（　　）
	実　績		50%	46%	51%	

進捗状況説明：小学5・6年生を対象にアンケート調査を行った結果、82%が「英語に対する興味・関心が高まった」と回答し、目標を達成した。
中学校生徒の英検4級の保有割合が51%となり、目標を達成した。

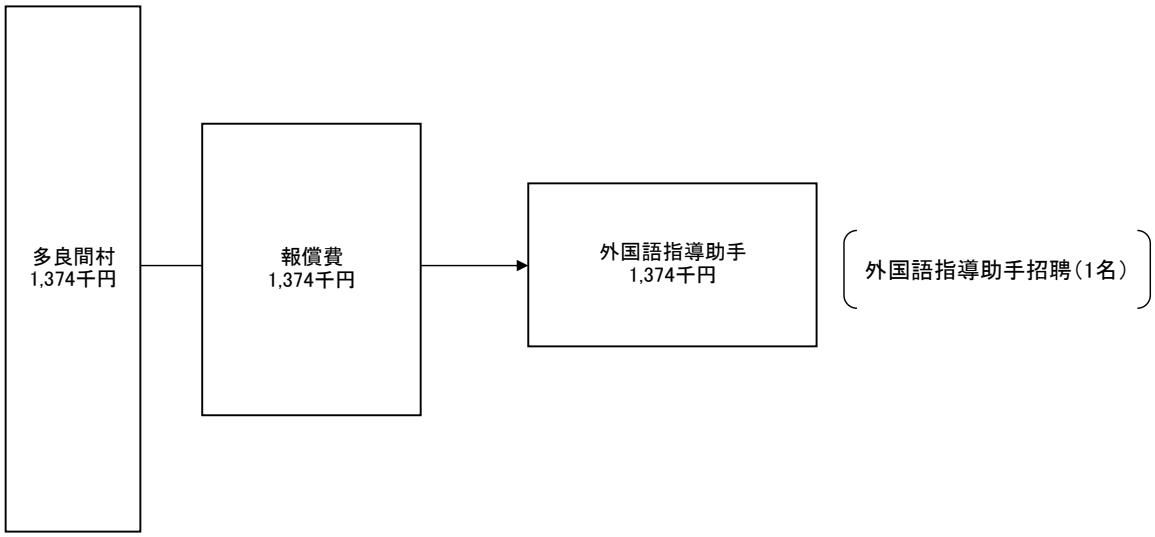
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・いまだに外国語活動や英語の授業において、児童生徒のコミュニケーションを図ろうとする態度及び英語に対する興味・関心に二極化がみられる。 ・児童生徒間の英語力に格差があり、外国語活動や英語の授業において難しいと感じる児童生徒がいる。	・小学校では、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、聞くこと・話すことを中心とした外国語の基礎・基本を身に付けさせる必要がある。また、中学校では、「英語の音声と文字との関係を学ぶ」授業カリキュラムを展開するとともに、小学校の外国語活動の授業パターンや活動内容を十分に把握し、新たに文字を扱うことによる「文字への抵抗感」をなくすような授業づくりをする必要がある。 ・「英語を聞いたり話したりする」・「積極的にコミュニケーションを図る」といった指導目標を掲げ、「グループ学習」・「ペア学習」・「習熟度別の授業カリキュラム」を実践するとともに、英語に対する興味・関心及びコミュニケーション能力をさらに高めてもらうため、これまでの事業内容を振り返り、授業内容の工夫やALTの資質向上を図り、学校現場でのより効果的な活用について検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・小学校では、徐々に英語に慣れ親しむといったステップを踏んだ上で、積極敵にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に加え、英語の音声と文字との関係を学ぶ指導の充実を図り、授業が難しいと感じる児童の減少に繋げる。また、中学校では、小学校以上にネイティブによる英語の指導に力を入れ、中学校英語教諭が小学校外国語活動の授業パターンや活動内容を十分に把握し、小学校と同様に「聞くこと・話すこと」の活動への評価のフィードバックの徹底を図り、また、新たに文字を扱うことによる「文字への抵抗感」をなくすような授業カリキュラムの推進を図る。
・小中合同授業研究会内での研修内容の精査を行い、ALTの資質向上のための取り組み、授業内容の工夫についての話し合いの回数を増やすことで、ALTの有効活用の充実を図る。また、習熟度別の授業カリキュラムを実践することで、「グループ学習」・「ペア学習」を通して、児童生徒に『分かる、できる喜び』を体感してもらうとともに、資質能力の育成を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,374	1,374	1,099	275	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○外国語指導助手(ALT)は、調査及び考慮の上選定しており、妥当であると考える。 ○不用額はなく、適正な規模と考える。 － ○費目・使途は予定通りで、目的に即した適正なものであった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	多良間村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-③	村営学習塾開設事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－5－（1）－ ウ 公平な教育機会の確保と学習環境の充実
担当部課名	多良間村教育委員会 教育課	事業実施（予定）年度	平成28年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（1）
事業内容	学力向上、高校受験対策の一環として児童生徒の学習をきめ細かに支援するため、村営の学習塾を開設する。その中で、学習支援員を配置することにより、多良間村に在学する小学3年生から中学3年生を対象に国語・算数(数学)・英語を中心とした学校外学習支援を実施する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	15,100	15,100	15,100	15,100	15, 100
	(b) 予算現額	12,526	14,795	14,300	14,538	12, 200
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,574	▲ 305	▲ 800	▲ 562	▲ 2,900
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	12,526	14,795	14,300	14,538	12,200
B. 執行済額		9,261	7,792	11,459	11,810	10,568
うち交付金充当額		7,409	6,233	9,167	9,448	8,454
次年度繰越額						
執行率（%）（B/A）		73.9%	52.7%	80.1%	81.2%	86.6%
予算の状況の説明		事業途中で講師1名が一身上の都合で本事業を外れたため、常駐の講師1名とオンライン授業で対応した。そのため、講師1名分の渡航費(交通費)及び滞在費(宿泊費)が不用となった。また、入札残等もあり執行率は71.1%となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
村営学習塾の開設	目　標	（　開　設　）	（　開　設　）	（　開　設　）	（　開　設　）
	実　績	開　設	開　設	開　設	開　設
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：臨機応変に対応できるように社会情勢に合わせた方法(オンライン)での支援も取り入れながら継続的に村営学習塾を開設して、効果的に学習できる環境を整えるとともに、学校外学習支援を強化すること、学びたいと希望を持つ児童生徒を受け入れることで児童生徒の学力向上と他地域との格差縮小に繋がった。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
沖縄県学力到達度調査における、県と本村学習熟受講生との平均正答率の差 ・小学校(国語・算数)－4.0ポイント以上 ・中学校(国語・数学・英語)－6.0ポイント以上	目　標	（　　）	（小学校－4.5P以上/中学校－5.0P以上）	（小学校－4.0P以上/中学校－6.5P以上）	（小学校－4.0P以上/中学校－6.0P以上）	（　　）
	実　績		小学校－4.1P 中学校－1.6P	小学校－3.9P 中学校－5.5P	小学校－3.7P 中学校－5.4P	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：沖縄県学力到達度調査における県と本村学習塾受講生との平均正答率の差については、
小学校は、(目標：-4.0P以上　実績：-3.7P)で目標を達成した。
中学校は、(目標：-6.0P以上　実績：-5.4P)となり、こちらも目標を達成した。

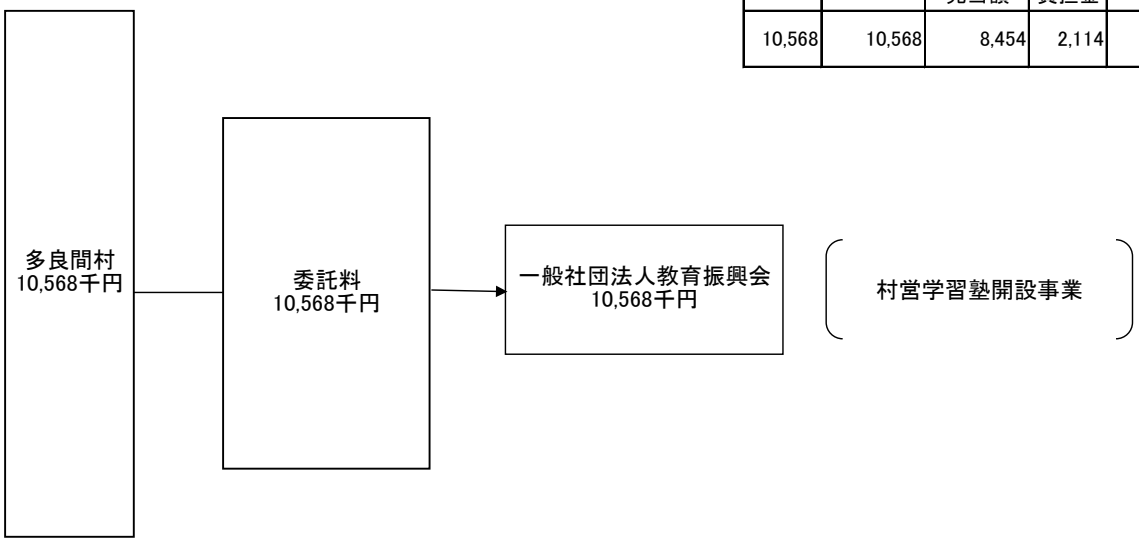
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・村営学習塾の出席率が低くなる傾向を解消するため、出席率アップのための改善策を学校側も含め検討する必要がある。 ・更なる基礎学力の定着と学び残しをなくすため、また、今まで以上の全体の底上げを行うため、効果的に学習する環境の整備の充実及び授業内容の工夫・改善を図る必要がある。	・村営学習塾の開講日程を小学校及び中学校の年間計画に入れてもらうとともに、周知徹底を図り、小学校及び中学校それぞれの部活動の時間帯調整や学校諸行事等を調整することで、出席率アップのための改善が図られている。 ・全ての児童生徒の個々の学習ニーズに可能な限り応えられる学習の場、環境を整備し、それぞれの学力に応じた授業カリキュラムの構築を図り、児童生徒の学力の二極化を解消する必要がある。また、習熟度別のクラス編成を行い、個々のレベルに合わせた教科書学習やプリント学習を実践することで、学力向上推進を図る。

今後の取り組み方針

・出席率アップのための改善策の徹底、学校側との情報の共有及び協働体制の構築を図る。
・児童生徒の学力の二極化の解消のため、また、全体の底上げを行うため、個々の学習ニーズに対応できるような授業カリキュラムの推進を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,568	10,568	8,454	2,114	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札により選定しており妥当であったと考える。 ○事業途中で講師1名が体調不良で本事業を外れた影響で不用額が多く、執行率も低くなってしまったが、予算規模は適正な規模と考える。 ○教材費は受益者に負担してもらっており妥当である。 ○支払いの度に検査を行い、目的に即し、必要なものだと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	多良間村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-④	多良間村就業意識向上支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-（4）- ア 多様な職業能力の育成・開発
担当部課名	多良間村教育委員会　教育課	事業実施（予定）年度	平成30年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－（1）

事業内容

小学6年生を対象に、沖縄本島(那覇市)を中心に企業を訪問して「ジョブシャドウイング(観察型キャリア教育)」を実施する。
中学1年生を対象に、多良間村、宮古島市を中心に「中学生多良間村課題解決プログラム」を実施する。
中学2年生を対象に、沖縄本島(那覇市)を中心に企業を訪問して「職場体験(体験型キャリア教育)」を実施する。
中学3年生を対象に、多良間村島内での「ライフキャリア教育」を実施する。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	8,500	9,500	10,000	11,000	10, 500
	(b) 予算現額	8,500	9,500	10,000	11,000	10, 388
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	▲ 112
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A.　計 (b+d)	8,500	9,500	10,000	11,000	10,388
B.　執行済額		8,168	8,935	9,608	10,636	10,388
うち交付金充当額		6,534	7,148	7,686	8,508	8,311
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		96.1%	94.1%	96.1%	96.7%	100.0%

予算の状況の説明　想定内の予算執行であった。尚、612千円の不用額は入札残である。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
沖縄本島へ小学6年生(15名)、引率者(5名)	目　標	（小学6年生（14名））	（小学6年生（14名））	（小学6年生（12名））	（小学6年生（15名））
	実　績	小学6年生(14名)オンラインで各企業を訪問・視察	小学6年生(14名)	小学6年生(12名)	小学6年生(15名)
宮古島市へ中学1年生(11名)、引率者(5名)	目　標	（中学1年生（15名））	（中学1年生（13名））	（中学1年生（13名））	（中学1年生（11名））
	実　績	中学1年生(15名)	中学1年生(13名)	中学1年生(13名)	中学1年生(11名)
沖縄本島へ中学2年生(12名)、引率者(5名)	目　標	（中学2年生（8名））	（中学2年生（15名））	（中学2年生（14名））	（中学2年生（12名））
	実　績	中学2年生(8名)	中学2年生(15名)オンラインで各企業を訪問・視察	中学2年生(14名)	中学2年生(12名)
多良間村島内で中学3年生(12名)	目　標	（－）	（－）	（中学3年生（15名））	（中学3年生（12名））
	実　績	－	－	中学3年生(15名)	中学3年生(12名)

達成状況説明

・小学6年生(15名)、引率者(5名)、沖縄本島での就業意識の向上に資する支援を実施し、活動目標を達成した。
・中学1年生(11名)、引率者(5名)、宮古島市での就業意識の向上に資する支援を実施し、活動目標を達成した。
・中学2年生(12名)、引率者(5名)、沖縄本島での就業意識の向上に資する支援を実施し、活動目標を達成した。
・中学3年生(12名)、多良間村島内での就業意識の向上に資する支援を実施し、活動目標を達成した。

成果目標（指標）及び進捗状況	成果目標（指標）		基準値（ 年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（ 年度）
	キャリア教育を受けた児童生徒へのアンケートで、働くことへの興味・関心が湧いたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	目 標	（ ）	（ 80% ）	（ 80% ）	（ 80% ）	（ ）
		実 績		89%	87%	89%	
	【参考指標】	目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績					
	進捗状況説明	キャリア教育を受けた児童生徒へのアンケートの結果、働くことへの興味・関心が湧いた児童生徒は、89%（小学6年生93%、中学1年生81%、中学2年生92%、中学3年生90%）となり、目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・働くことへの興味・関心及び働くことへの意識が希薄である理由のひとつに、村内の企業(事業所)が少ないことが挙げられる。 ・地域に対する興味・関心が希薄で、多良間村の現状と課題もわからない児童生徒がいるという現実がある。 ・将来の職業に対する夢や希望、目標、自立に向けた自己イメージの習得ができず、島を旅立つ(15の島立ち)生徒がいるという現状がある。	・小学6年生には、数多くの職種に興味・関心を持たせ、働くことの意識付けを行う必要がある。 ・中学1年生には、地域への愛着と誇りを持ってもらい、多良間村の現状と課題を知る中で、中学生なりに分析することにより、地域について興味・関心を深めてもらう必要がある。 ・中学2年生には、村内にない業種や職種にふれ、村内の業種や職種との違いや共通項に気づき、村内外の産業や職業への理解を深めてもらい、将来の夢、生き方、進路等の選択に生かしてもらう必要がある。 ・中学3年生には、自分の将来像を明確にイメージさせる事で、「自己肯定感、自己有用感を実感させる取組」・「社会や生活との繋がりを意識する取組」における継続的支援体制を整え、「15の島立ち」に向けた資質・能力の育成を図る必要がある。

今後の取り組み方針

・島外で様々な企業、職種があることを理解し、職業観及び勤労観の喜びを深めるため、就業意識の向上のため、産・官・学が一体となった協働体制の構築を図る。
・多良間村の現状と課題を学び、多良間村について考えることで、多良間村の実態を把握し、キャリア教育の推進・充実を図る。
・将来を担う児童生徒の育成のため、人材の還流を図る。
・継続的にキャリア教育を行うことで、情操教育に繋げるとともに、児童生徒の就業意識の向上を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,388	10,388	8,311	2,077	0

多良間村 10,388千円 → 委託料 10,388千円 → (株)ケイオーパートナーズ 10,388千円 （多良間村就業意識向上支援事業）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札により選定しており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額がほとんどなく、予算規模は適正な規模と考える。
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	―
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○支払いの度に検査を行い、目的に即し、必要なものだと判断する。

市町村名	多良間村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑤	多良間村自然文化継承事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－1－（4）－ア 沖縄文化の継承・発展・普及
担当部課名	多良間村教育委員会　教育課	事業実施（予定）年度	平成30年度～令和7年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（3）
事業内容	多良間村の自然文化継承し、これらを観光資源として活用するため、郷土資料の修復や調査記録等を編集するための整理を行う。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	33,928	33,343	23,500	24, 380	30, 435
	(b) 予算現額	33,268	33,097	23,364	24, 200	30, 360
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 660	▲ 246	▲ 136	▲ 180	▲ 75
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A.　計 (b+d)	33,268	33,097	23,364	24,200	30,360
B.　執行済額		33,267	33,097	23,364	24,200	30,360
うち交付金充当額		26,613	26,477	18,691	19,360	24,288
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明：入札残による事業計画変更による予算減が生じたものの、全額執行にいたった。

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
郷土資等の修復、公開	目　標	（　実施　）	（　実施　）	（　実施　）	（　実施　）
	実　績	実施	実施	実施	実施
年中行事の調査記録編集整理	目　標	（　実施　）	（　実施　）	（　実施　）	（　実施　）
	実　績	実施	実施	実施	実施

達成状況説明：郷土資等の修復、公開及びシンポジウム開催、現代語訳本・解説版の出版、年中行事の調査編集、デジタルアーカイブを構築し目標を達成した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
①ふるさと民俗学習館の村民利用者数193人以上	目　標	（　）	（177人以上）	（175人）	（193人）	（　）
	実　績		169人	207人	196人	
②ふるさと民俗学習館の観光客利用者数297人以上	目　標	（　）	（652人以上）	（309人以上）	（297人以上）	
	実　績		743人	1,073人	1,043人	
③シンポジウム来場者数100人以上	目　標	（　）	（50人以上）	（60人）	（100人）	（　）
	実　績		90人	130人	72	

進捗状況説明：
・ふるさと民俗学習館利用者は、村民利用者数・観光客利用者数とも目標を達成した。
・シンポジウムは、競合イベントの影響により目標に届かなかった。

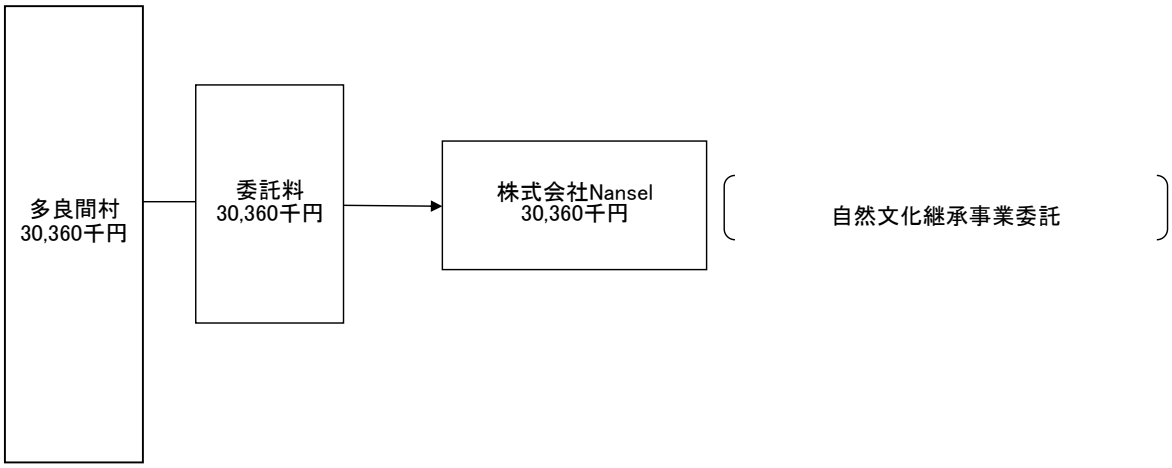
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（村内の利用者数・観光客利用者数） ・新型コロナウィルス感染症禍で減少した旅行需要の回復や、村内イベントが従来通りに実施され、古文書の修復・翻刻・現代語訳の完成、シンポジウム開催、アーカイブツーリズムの普及により、目標値達成の要因と考えられる。 （シンポジウム来場者数） ・開催方法を「来場型」・「オンライン型」の同時ハイブリット式で行い、開催場所を村内のみ(前年度は2ヶ所)で実施したが、同日に別の集会があり、参加者が分散したため来場者数が見込めなかった。 ・SNSやメールなどでの告知が不十分であった。	（村内の利用者数・観光客利用者数） 目標実現に向けて、引き続き古文書の修復、翻刻、現代語訳、電子化を進める。また、古文書を基にした島の年中行事の調査や、動植物を映像で記録し、地域学習へとつなげていく。さらに、アーカイブリズムツーやデジタルアーカイブの整備を進め、その内容を充実させることで、情報発信を強化する。これにより、利用者の増加に繋げることを目指す。 （シンポジウム来場者数） ・SNS・地域メディアを活用した事前宣伝を増やし、他イベントとの重複を避けるためのスケジュール調整する。開催場所を増やし、事業の理解と広報を行い、ふるさと民俗学習館の利用促進を図る

今後の取り組み方針

・現代語訳・解説版を、企画展やシンポジュームの開催、地元の歴史を知る学習資料として貸出するとともに、出前授業を実施し活用の促進を図る。
・アーカイブツーリズムの内容充実と広報を強化するため、説明版や公共施設などに資料配布やポスターを掲示し、村観光協会とも連携を図る。
・ホームページでのWEB公開を行い多良間の歴史文化に興味を持った方々が多く訪れる観光スポット、地元の歴史を知る学習資料として活用する。
・古文書（組踊り台本）を豊年祭当日組踊に合わせて字幕スーパーをモニターに映し提供する。
・年中行事の調査をし、報告書にまとめ動画に残すことで継承と保存に繋げる。
・動植物の調査をし、
・SNSや地域メディアを活用した事前宣伝を増やし広報戦略の強化を図る。
・他イベントとの重複を避けるためのスケジュール調整を行う。
・シンポジュウム参加者のフィードバックを活かして、次回の講演会の質を向上させる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
30,360	30,360	24,288	6,072	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算額も事業内容に見合った執行となっており、適正な規模であった。
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	―
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した

市町村名	多良間村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-①	多良間村自動車航送負担コスト軽減事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(8)-ア 人流・物流のコスト低減と情報通信基盤の強化
担当部課名	総務財政課	事業実施（予定）年度	平成27年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9-(2)
事業内容	離島住民の利便性を確保するため、高額である多良間島⇔宮古島間のﾌｪﾘｰ自動車航送に係る運賃補助を実施する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,715	1,157	1,374	1,582	1,582
	(b) 予算現額	1,715	1,157	1,474	1,582	1,582
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	100	0	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	1,715	1,157	1,474	1,582	1,582
B. 執行済額		1144	1157	1474	1,231	1,561
うち交付金充当額		915	926	1045	985	1,249
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		66.7%	100.0%	100.0%	77.8%	98.7%

予算の状況の説明：当初計画よりも利用客が若干伸びなかったため、21千円の不用額が発生した。広報や各戸チラシ配布をとおして、フェリー等で車を運送する住民に、本制度の利用を周知し、住民負担の軽減を図る。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
多良間島⇔宮古島間の自動車航送運賃の補助	目　標	（　軽減　）	（　補助　）	（　補助　）	（　補助　）
	実　績	軽減	補助	補助	補助
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：年間を通じて運賃補助を実施し、住民の多良間島⇔宮古島間の自動車航送コスト負担を軽減できた。
自動車航送に係る運賃補助の実施台数は前年度85台、今年度は106台であった。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
運賃補助によって宮古島へ移動しやすい環境となっているか（80%以上）を含め、島民へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目　標	（　）	（　80%以上　）	（　80%以上　）	（　80%以上　）	（　）
	実　績		95%	100%	100%	
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：利用者へのアンケートの結果、今年度は100%の島民が宮古島へ移動しやすい環境の構築が図られたと回答し、成果目標を達成した。

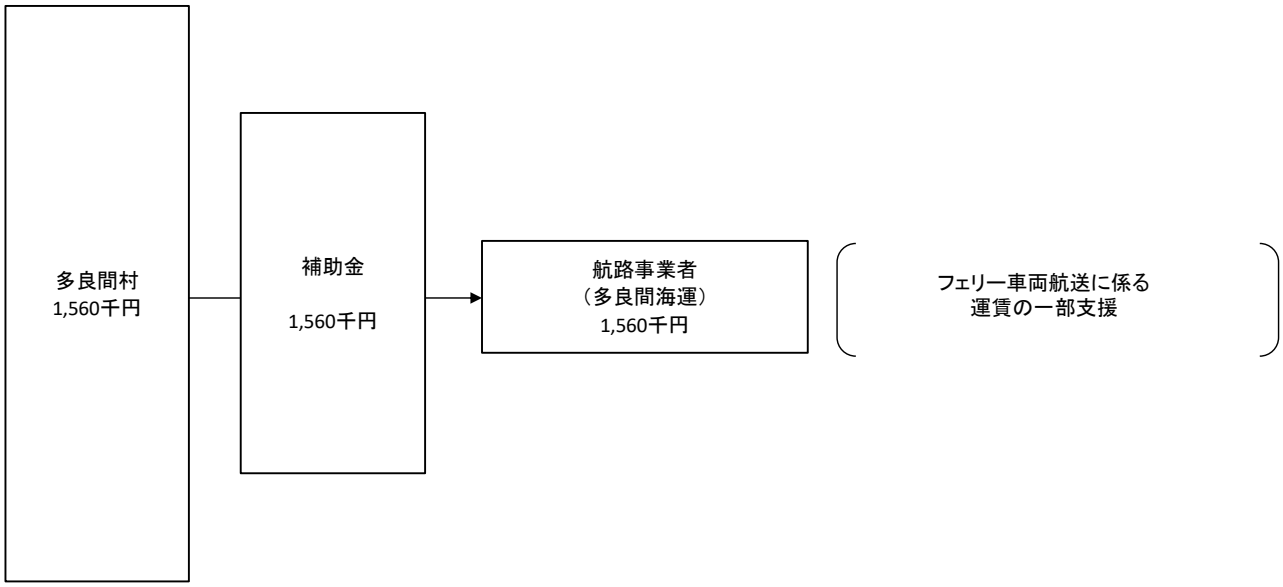
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	前年に比べて利用台数は85台から106台と約1.3倍に増加した。これからも利用者の増加に対応できる予算の確保を行う。	利用状況の確認をこまめに行い、予算が不足することがないよう取り組む。また、引き続き連絡を密にし問題点、改善点の把握に努める。

今後の取り組み方針

毎月の概算払いにおいて、月ごとの利用者数を把握するとともに、航路事業者と連絡をこまめに取り、利用者の状況や問題点、改善方法を協議し対策を講じることで、更なる本事業の効果向上を図る。また、広報や各戸チラシ配布等で周知の徹底を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,560	1,560	1,248	312	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、航路事業者が1事業者しかないため妥当である ○実績の状況に応じ年度内で事業費の増減を行うなど、事業内容に見合った予算規模となっている。 ○利用者も一定の負担をしており、受益者との負担関係は妥当である。 ○費目・使途については実績報告時において支出等に関する書類により確認適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	多良間村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-②	多良間村離島航空路チャーター運航支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－2－（8）－（エ） 離島を結び支える安全・安定的でシームレスな交通体系の構築
担当部課名	総務財政課	事業実施（予定）年度	令和5年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9－（2）
事業内容	多良間－石垣間の航空路の運航・維持により村民の利便性向上や定住条件の整備、交流人口の増加等で村の振興に繋げる。その、チャーター便の運航に伴い生じた欠損額に対し、補助を行う。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R6年度	○年度	○年度	○年度	○年度
予算の状況	(a) 当初予算額	0				
	(b) 予算現額	5,255				
	(c) 増減額 (b-a)	5,255	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	5,255	0	0	0	0
B. 執行済額		5,245				
うち交付金充当額		4,196				
次年度繰越額						
執行率（%）（B/A）		99.8%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		当初予算額から△10千円と概ね予算通りであった。				

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R6年度	○年度	○年度	○年度
多良間-石垣間のチャーター運航に対する欠損補助	目　標	（　欠損補助　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	欠損補助			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	多良間-石垣間のチャーター便運航に伴い生じた欠損額に対し、補助を行った。				

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R6年度	○年度	○年度	目標値（　年度）
多良間-石垣間航空路線の運航・維持	目　標	（　）	（運行の維持）	（　）	（　）	（　）
	実　績		運行の維持			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	多良間-石垣間航空路線の運航・維持ができた。					

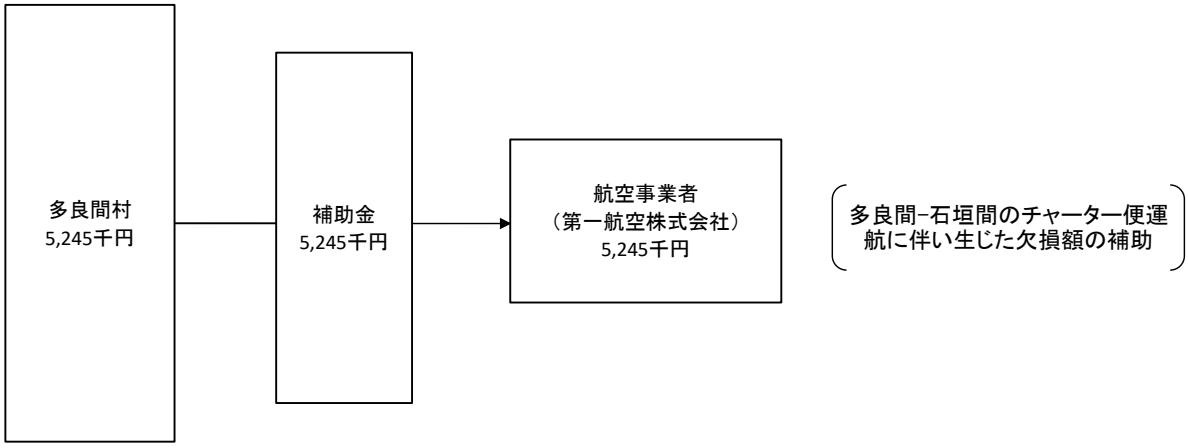
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	天候不良や機材トラブルによって生じるチャーター運航に対する欠損補助を行い、多良間村と石垣間の航空路線の維持ができた。	引き続き、多良間-石垣間のチャーター運航に対する欠損補助を継続し利便性の維持に努めるとともに、利用率増加に向けた取り組みも必要である。

今後の取り組み方針

離島住民の交通手段である離島航空路を確保・維持することにより、離島の定住条件の整備を図られることから、本村航空路線の運航・維持に務める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,245	5,245	4,196	1,049	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、航空事業者が1事業者しかいないため妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業内容に見合った予算規模となっている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○利用者も一定の負担をしており、受益者との負担関係は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については実績報告時において支出等に関する書類により確認適正であった。

市町村名	多良間村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	５-①	多良間村心身障害児等渡航費助成事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(8)-ウ 公平で良質な医療･福祉サービスの確保
担当部課名	住民福祉課	事業実施（予定）年度	令和3年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-4-(2)
事業内容	本村に居住する心身障害児等が島外の医療機関で治療及び療育支援を必要と主治医又は村から判断された者が、当該治療等のため受診する際に係る航空運賃及び宿泊費を助成する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
予算の状況	(a) 当初予算額	880	1,040	1,300	1,300	
	(b) 予算現額	880	1,040	1,300	800	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	▲ 500	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	880	1,040	1,300	800	0
B. 執行済額		311	297	437	350	
うち交付金充当額		249	237	349	280	
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		35.3%	28.6%	33.6%	43.8%	#DIV/0!

予算の状況の説明：助成対象者の受診回数等が予測できないため、予算多めにを確保したが、受診回数が見込より減少。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
申請者に対し助成金の交付	目　標	（　実施　）	（　実施　）	（　実施　）	（　実施　）
	実　績	実施	実施	実施	実施
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：村内の医療機関等では対応できない専門治療等を島外で受けるための旅費及び宿泊費を助成することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（R3年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
渡航費支援が必要な児童への支援率100%	目　標	（100%）	（100%）	（100%）	（100%）	（　）
	実　績		100%	100%	100%	
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

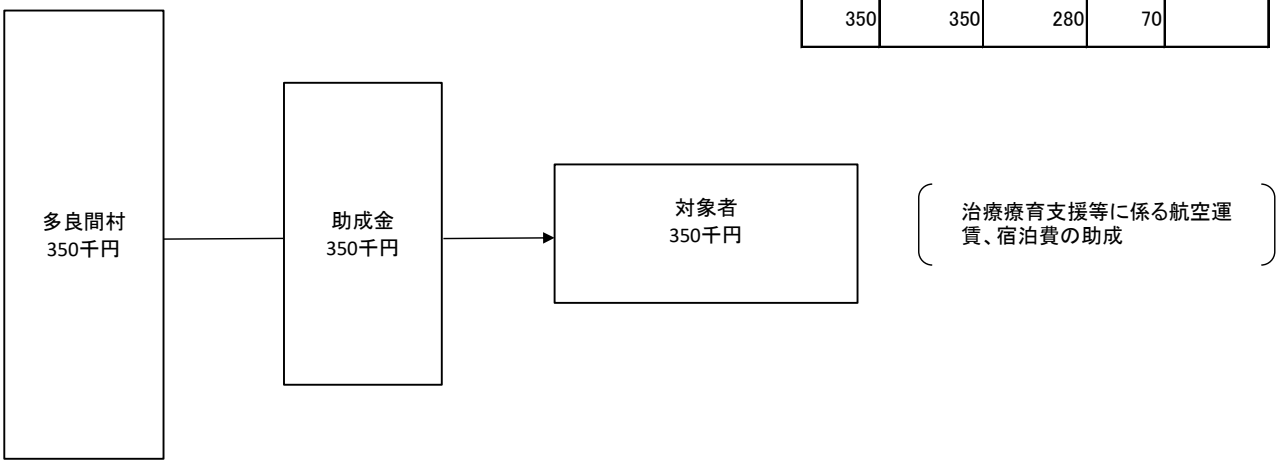
進捗状況説明：支援対象者の渡航自体が当初予定より減少したが、渡航した対象者については支援できた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	支援数は当初想定より下回ったが、目標については達成できた。	目標については達成しているが、他に支援を必要とする方がいないか病院や保健師と情報共有して、渡航助成をしていく必要がある。

今後も実績が達成できるように対象者の経済的負担を支援していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
350	350	280	70	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	支出先は要綱等に基づき交付決定しており妥当である
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	執行率が低いが、受診頻度が予測できないため、予算規模は適正だと考える
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	対象者は実費の1割を負担しており、助成額には単年度で上限額をを設定しているため妥当であった
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費目・使途については実績報告時において支出等に関する書類により確認しており適正であった

市町村名	多良間村

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	５－②	多良間村地下水源保全推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(7)-イ
					快適な生活環境の形成
担当部課名	住民福祉課	事業実施（予定）年度	令和6年度～令和7年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－（1）
事業内容	生活用水の利用のほとんどを地下水に依存する多良間村において、住民生活、産業基盤等の根幹を成す地下水源を適正に保全するため、島内唯一の最終処分場の改修工事を実施する				
効果発現年度	□当年度　■後年度（R7年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R6年度	R6年度(繰越)	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	47,256				
	(b) 予算現額	50,436				
	(c) 増減額 (b-a)	3,180	0	0	0	0
	(d) 繰越額		50,436	0	0	0
	A. 計 (b+d)	50,436	50,436	0	0	0
B. 執行済額		0				
うち交付金充当額		0				
次年度繰越額		50,436				
執行率（%）(B/A)		0.0%	0.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		今年度は実施設計業務の委託を発注したが、埋立地場内にある廃棄物を搬出するための用地選定が遅延したため、繰越となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
実施設計業務の発注	目　標	（1件）	（　）	（　）	（　）
	実　績	繰越			
撤去工事の発注	目　標	（1件）	（　）	（　）	（　）
	実　績	繰越			
達成状況説明	実施設計業務（撤去設計、復旧設計）を発注したが、処分場内にある廃棄物の用地確保に時間を要したため、繰越し手続きを行い設計及び撤去工事のみ実施				

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（年度）	R6年度	R7年度	R8年度	目標値（年度）
撤去設計、復旧設計の作成及び撤去工事の実施	目　標	（　）	（設計・撤去の完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		未完了・繰越			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	実施設計業務（撤去設計、復旧設計）を発注したが、処分場内にある廃棄物の用地確保に時間を要したため、繰越し手続きを行い設計及び撤去工事のみ実施					

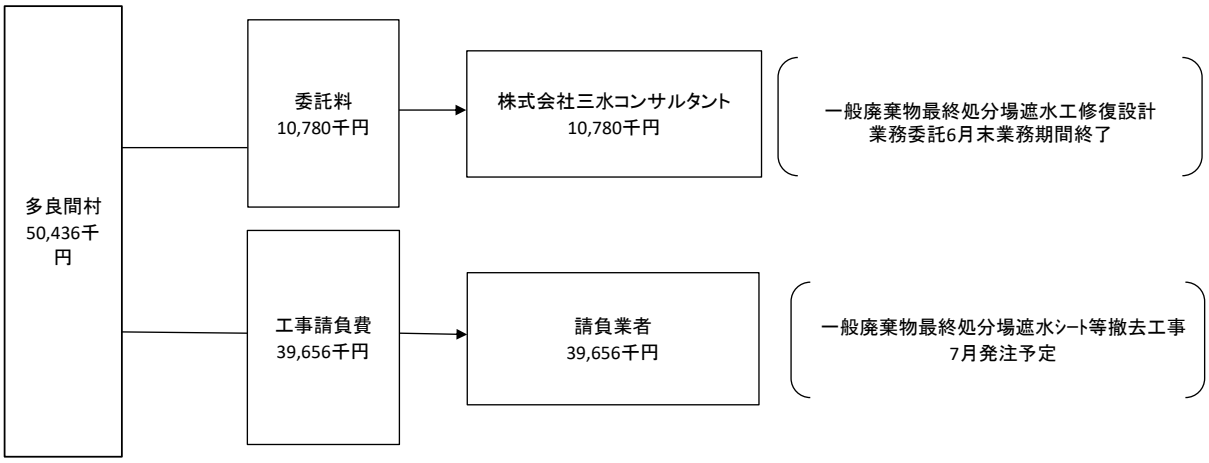
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	実施設計業務（撤去設計、復旧設計）の発注は計画的に実施できた。しかし、処分場内にある廃棄物の用地確保に時間を要したため実施が困難となり、繰り越し手続きを行うこととなった。	前年度の遅れを踏まえ、撤去工事から復旧工事がスムーズに実施できるよう計画的にスケジュール管理を行い、実施する。

今後の取り組み方針

実施設計業務が6月末に完了するため、R6事業の撤去工事及びR7年度事業の復旧工事は関連性がある事や、遮水シートの性質上、真夏の炎天下で施工してしまうと、シートが伸びてしまい、冬になってたるみ等発生する可能性があるため、時期を的確に把握して実施することが重要になる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
50,436	50,436	40,348	10,088	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	指名競争入札で発注
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	設計業務にて撤去費用が確定
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	妥当である
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	委託業務と工事業務で限定